

平成22年度 学校評価実施要項

仙台市立仙台商業高等学校

1 趣 旨

仙台市立学校の管理運営に関する規則第23条に基づき、本校の教育全般にわたる教育計画及び教育活動に係る自己点検・自己評価を次のねらいのもとに行い、教育活動の継続的な改善，更新，革新を図る。

- (1) 社会の変化に対応し，開かれた学校づくりや特色ある学校づくりを推進する。
- (2) 生徒や保護者のニーズに対応した教育を行う。
- (3) 教育計画及び教育活動を点検し，評価することで改善方法を明らかにする。また，その結果を公表することで，保護者や地域社会等に対して説明責任を果たし，理解と支持される学校づくりを進める。
- (4) 教育目標達成のための教育活動をより効率的，効果的に行う。また，校内組織と教育活動の活性化を図る。

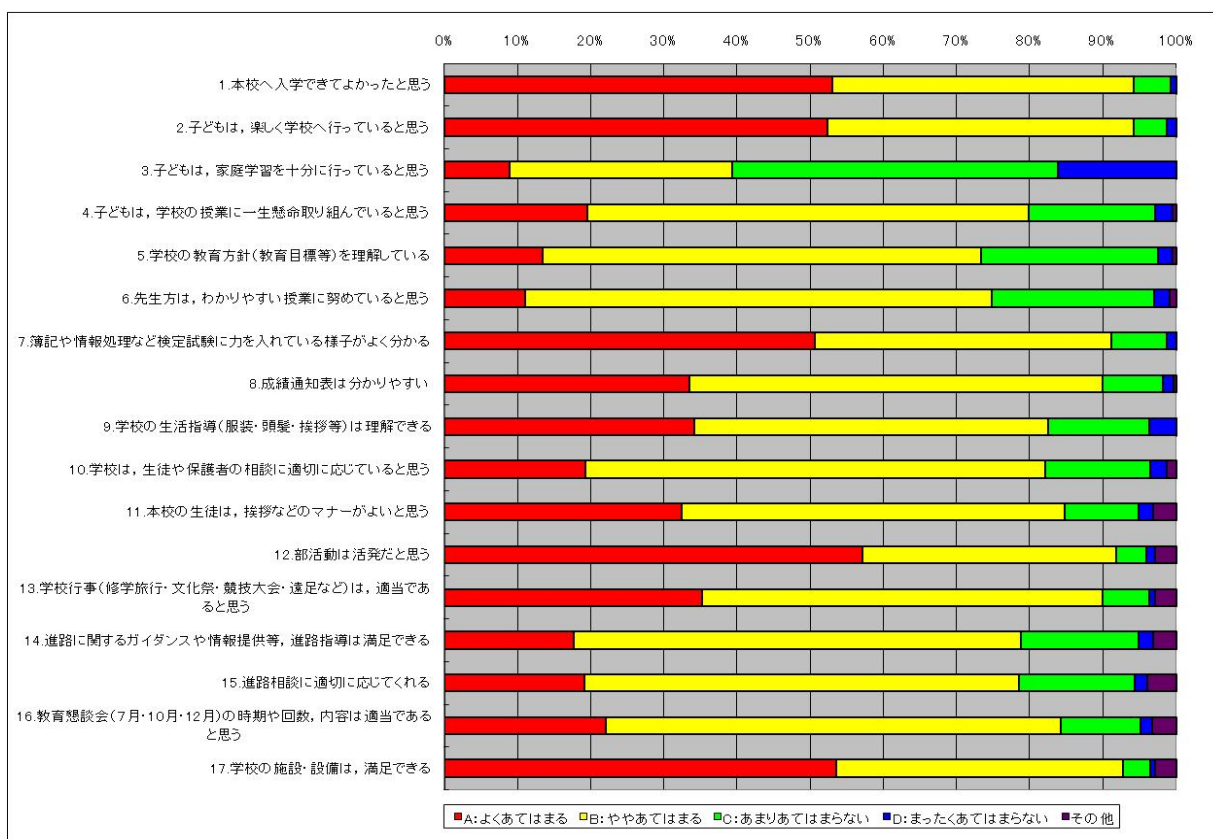
2 実施日および対象

実施日：平成22年12月

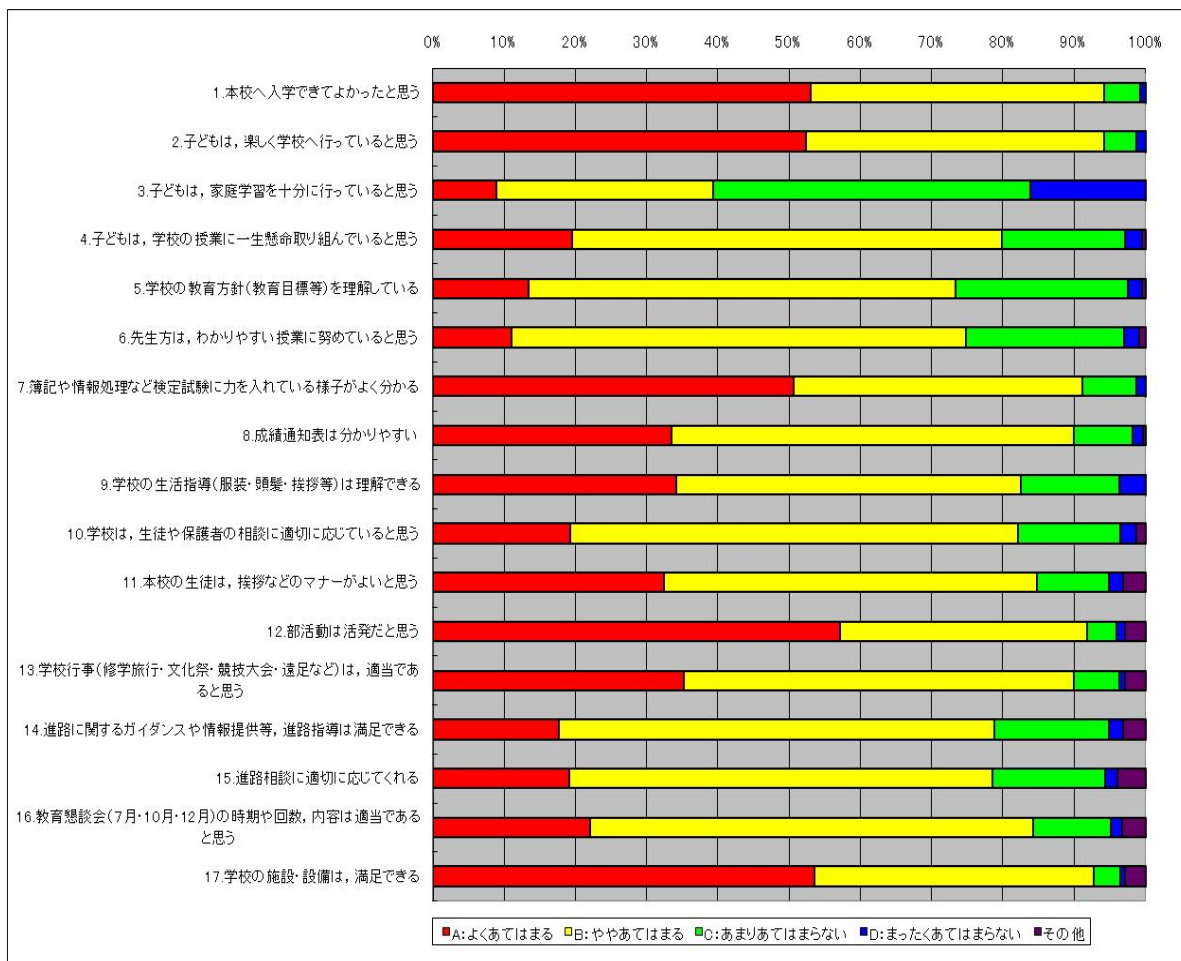
対 象：生徒・保護者全員

3 集計結果

(1) 生徒結果集計（グラフ）



(2) 保護者結果集計 (グラフ)



4 分析・考察

(1) 学校に対する全体的な印象

生徒のグラフを昨年度のものと比較すると、生徒対象のものはほぼ全項目について「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が、右寄りに数値を伸ばしており、評価としては好ましい方向にきている。このことは、昨年比べて3学級分生徒数が減少しているということはあるが、本校の取り組みが実を結んできていることを表しているといえよう。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では89%に達している。3年生は本校を受験する時点で、昨年度4月からの学校統合を理解して入学してきたことを表していると思われ、90.1%の生徒が本校へ入学できてよかったとしている。2年生の割合が最も低い(83.4%)のは、女子の約2割近くが、「あてはまらない」または「まったくあてはまらない」というマイナスの回答していることによる。このことは昨年もみられ、昨年は1年生の女子の約3割近くがマイナスの回答をしていた。1年の経過の中でその割合が1割ほど減ってきたことを評価したい。

保護者からは全学年とも94%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しても同様な傾向が見られ、生徒は3年生が最も高く(87.4%)、1年生(84.5%)、2年生(81.1%)と低下するが、保護者の方は学年に関係なく9割を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。

(2) 目的意識

「資格取得を目指している（目指した）」生徒の平均が9割近く（88.9%）、「学校全体に部活動が活発だと感じている」生徒が同じように9割を超えている。保護者のアンケートにおいても、この項目の関連では9割を超えるという高い割合を示している。これらについては、旧仙商において推薦入試により入学してくる定員の40%の生徒の多くが、『商業関係の資格取得を目指しながら部活動にも積極的に取り組みたい』という目的意識を強く持っていることが統合後の現在でも良く生きているということを示していよう。そしてこれらの生徒が商業高校としての特徴をよく理解して学校生活に明確な目標を持っている姿が、一般入学してくる生徒達に対してもよい効果を及ぼすであろうということにつながって行くことができよう。また、後述するように部活動への取り組みについては、学年による差よりも男女による差が大きい。今後とも、生徒達が充実した学校生活を送れるよう、本校の特色ある教育活動を継続し、さらに発展するよう実践していきたい。

(3) 学習意欲

生徒の「家庭学習はきちんとやっている」との質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で26.9%であり、内訳は1年生が29.9%、2年生が21.1%、3年生が29.1%である。（昨年1年生26.2%、2年生17.7%、3年生26.1%）保護者の「子どもは家庭学習を十分に行っている」との質問に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で39.3%であり、内訳は1年生が41.5%、2年生が36.5%、3年生が39.7%である。生徒・保護者とも2年生でのポイントが他学年に比べて低い。しかし、「資格取得を目指している・目指した」との質問に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒が全体で88.9%であり、学年間に大差はないことから、2年生については、自分の進路にも関わってくる上級の資格取得を目指す意欲に、家庭学習が追い付いていない傾向が窺える。考察するならば、家庭学習習慣をしっかりと確立させる事により、今まで以上の高いレベルの資格取得の実現や、それを一つの素因として、大学進学や就職といった進路実現がより可能になることと考えられる。

生徒の「わかりやすい授業が多い」との質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で50.4%（昨年は40.9%）であり、内訳は1年生が59.1%、2年生が46.4%、3年生が46.5%である。（昨年1年生46.1%、2年生35.4%、3年生42.4%）今年度の1年生は6割近い生徒が回答しており、新入生としての学習意欲との関連が窺える。また、このことは、現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、「わかりやすい授業」を目標とした「教材研究」等を通じ全体的にポイントが上がったものと思われる。今後も授業力向上を図り、本質問項目の回答が100%になるよう全教職員がさらに研究と修養に励むところである。

生徒の「成績はどのように評価されるか知っている」との質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は全体で83.0%であり、学年別では1年生が84.6%、2年生が83.3%、3年生が81.4%であり学年間に大差がない。（昨年1年生79.3%、2年生73.1%、3年生80.0%）昨年と比べ全体的にポイントが上がっている要因としては、教員側のしっかりとした評価法の周知徹底、及び、生徒側の評価に対する関心の高さが起因しているものと思われる。評価については、評価観点を記載した改訂シラバスの活用を含め、今後とも教員側から生徒に明確に示していかなければならない点である。

(4) 生活意識

「学校行事は楽しく工夫してある」に関しては、約80%の支持が得られており、生徒はほぼ満足していると理解できる。「学校の雰囲気はよい」に関しては80%を超える高い割合を示している。「学校の生活指導は理解できる」に関しても69.5%の割合で理解されている点は評価できるだろうが保護者（82.5%）との開きが大きい。生徒にとって「校則」等に不満があることは理解できるが、社会的な常識や規範意識の大切さ等を根気強く指導していきたい。

生徒の「学校はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が52.7%と低く、この点も問題である。保護者の「学校は生徒や保護者の相談に適切に応じている」が82.1%

であり、生徒と保護者の捉え方に違いが生じている。保護者が全ての評価項目に対して理解を示しており、全体平均で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が80%を超えることを考えれば、現在の学校の教育活動全般が保護者から認知されていると解釈できる。ただし、日常、相対している生徒との関係としては、様々な問題に対し、素早く適切な対応を心がけているが、結果から見ると不十分である。生徒とのさらなるコミュニケーションや迅速なる対応を図りながら問題を解決していきたい。

保護者の「生徒の挨拶等のマナーが良い」は、84.8%と高い（旧仙商では93%）割合を示しておりこの点は、本校の誇りでもあり、学校全体の雰囲気を作っている原点でもある。今後とも教職員が自ら模範を示しながら生徒の意識を高めていきたいものである。しかし、校外に問わず一部の生徒の幼稚さが行動に現れ、度々注意を受け、事故を起こすこともあり、特に今後は校外においても高い評価が得られるよう指導していきたい。

(5) 進路意識

この進路関係項目は生徒と保護者とも割合としては低い結果を示している。この調査と進路説明会との時期によっても割合が変化する項目でもある。保護者の「進路に関するガイダンスや情報提供等に満足できる」と「進路相談に適切に応じてくれる」の項目についていずれも70%を示しているが、生徒はいずれも60%台である。

進路に関する情報や進路相談については、1年生に低く学年が上がるほど数値が高くなるのが普通であるが、1・3年生が7割を超えているのに、来年度中に進路決定を控えている2年生が50%台であることは早期に進路意識を高めることが重要になることが読み取れよう。

1年生の早い段階から進路意識の高揚を図りながら、もっと積極的に進路について考える機会を与え続けることはもちろんであるが、特に2年生に対する進路意識の高まりを促す指導が重要であろう。そして自己理解を早い段階で行わせることで、生徒の持っている興味・関心・適性等を理解させる手段等も指導に加えなければならない時期にきているだろう。

(6) 男女差の大きい項目について

生徒のグラフは、男女を合わせた割合が表示されているため読み取りにくい、「部活動に積極的に取り組んでいる」は、男子79.8%、女子58.5%と最も開きが大きい。さらに細かく学年ごとに見てみると右の表のようになり、学年を追うごとに女子の割合が約10%ずつ低下していることが読み取れる。積極的に学校生活に取り組みせ、次年度および卒業後の進路指導を考えたとき、早めの指導が必要なことを暗示している。

	男子	女子
1年	82.5%	69.8%
2年	82.1%	58.1%
3年	74.9%	47.7%

保護者の回答の中では「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」が男子31.6%、女子46.6%と15%の差が生じている。特に2年生は男子が20.9%、女子が50.1%と、大幅な開きがある。前述した部活動への取り組みでは、女子に比べて男子の割合が高かったが、それとは逆の結果が表れている。部活動には積極的に取り組んでいるが、その反面、家庭学習を十分に行っていない様子が窺える。

今後は家庭学習の習慣をしっかりと定着させ、学業と部活動の両立をサポートできるよう指導を継続していきたい。

(7) その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒・保護者とも90%近くを示している。旧仙商が泉校舎に新築移転して12年目となるが、公立高校としては全国でも有数な施設設備を有効に活用していることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。今後も、生徒が「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的な意見や要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、貴重な意見や要望等にも真摯に取り組み、よりよい学校を目指して検討・改善していきたい。